

# 動物薬で笑顔あふれる社会づくりに貢献



大日本住友製薬(株)のアニマルサイエンス部が独立して、今年7月、DSファーマアニマルヘルス株式会社が発足した。医療用医薬品マーケティングや海外事業畑を歩み、新会社の社長に就任した伊集院 哲氏は61歳。動物薬部門については若い時に短期間携わっただけの素人同然だと自ら言うが、「動物薬を中心に、質の高い新たな価値を創造することで、動物たちの健康を支え、彼らと共に暮らす人々の笑顔あふれる社会づくりに貢献したい」と静かなる闘志を燃やす。

DSファーマアニマルヘルス株式会社 代表取締役社長  
いじゅういん さとし  
伊集院 哲氏

## 開発から上市までの一貫体制

——大日本住友製薬がアニマルヘルス部門を分離独立させた狙いは。

**伊集院** 私たちは、大日本製薬時代の1950年に動物薬事業を始めましたので、人間でいうと本年がちょうど還暦の年にあたります。これまで順調に成長し、収益もある程度上げられる事業に育ってきましたが、今後もまだまだ成長性が期待される事業であることから、この還暦の機会に思い切って分社化しました。経営の自由度や独自性を確保し、医療用医薬品事業と異なる業態・業容に応じた経営を行うことで、さらなる発展をさせようというものです。もちろん独立採算・自己責任という厳しい面はありますが、事業発展の楽しみにわくわくしています。

これまで国内製薬メーカーの多くが動物薬事業から撤退している中で、私たちは残り少ない国内開発型動物薬メーカーとして独立いたします。その意味でも責任ある分離独立であると思っております。——独立した新会社は、動物薬の開発から製造販売まで一貫してやる会社としてアイデンティティがあるということですか。

**伊集院** そうですね。私たちは、大日本住友製薬(DSP)グループの一員として医療用医薬品のパイプラインを動物薬用に活用し、自ら新しい製品を開発できるという特徴があります。また、これまでも自社で動物用医薬品開発の経験を積んできま

したので、自ら開発し、自らお客様に提供する、という製販一貫の動物薬会社になるという考えです。

——貴社の事業の構成をお聞かせ下さい。

**伊集院** 初年度の売上高は約115億円で、おおよそ小動物分野が95億円、畜水産分野が20億円(内3億円は輸出)という構成になります。

## 小動物医薬品と特別療法食が主力

——小動物が主力のようですが、商品別の構成はどうなっていますか。

**伊集院** DSPが自社で研究開発した化合物で、動物薬として製品化したもの(いわゆる自社品)には、アピナック錠(ACE阻害剤)、プロナミド錠(消化管運動機能改善剤)、ピクタスS注/錠/MTクリームなどがあります。当社が製造販売承認を取得した提携開発品としては、ライフチップ(個体標識用マイクロチップデバイス)、カルトロフェン注(関節炎症状改善剤)、イソフル(全身麻酔剤)などがあります。さらに、他社との提携販売製品として、点眼薬のロメワンやステロップ、犬フィラリア症予防薬のイベルメックDSPなどがあります。

また、食医同源と言われるように、動物たちの病気の治療には食事管理も重要な要素になりますので、特別療法食・健康維持食を20年以上前より扱っています。

——その薬よりもボリュームの大きい

特別療法食は自社生産ですか。

**伊集院** いえ、輸入です。米国ヒルズ社の製品の日本市場での販売を私たちが担当しています。ヒルズ社は科学的根拠に基づく製品開発を進めており、その実績から米国・日本のみならず世界の多くの国々で高い評価を得ています。

——中長期的の経営計画を伺いたいのですが。

**伊集院** 私はまず、マネジメントの基本として3つのことを掲げています。1番目は「CS経営の実践」です。CSというのは、Customer Satisfactionの略で「顧客満足」という意味です。お客様のためにという謳い文句は多くの企業が掲げていますが、それを経営として実践するのはなかなか難しいことだと思います。

売上を増やす、儲けを出すことが先に立つという考え方は、私は好きじゃないのです。お客様のニーズにしっかりお応えし、お客様が真にご満足いただいた結果として売上が増え、利益が上がるのです。

2番目が「総合力の発揮」。先ほどちょっと触れましたが、私たちはあくまでもDSPグループの一員です。DSPの豊富な医療用医薬品のパイプラインを動物薬に活用できますし、DSPの研究部門や製剤技術部門のバックアップも得られます。その意味で、まずはDSPグループとしてのシナジー効果を「総合力の発揮」と言っています。また、当社内においてはチームワーク

力を発揮するという意味でも使っています。さらには国内外のパートナー様や特約店様との連携力も「総合力の発揮」です。

最後の3番目は、「活気あふれる風土」ということです。企業がどんなに良い戦略を立てようが、社長がどんな指示・命令を出そうが、社員がやる気を持って楽しく仕事をし、戦略を実践してくれなければ、何も実現しませんし、お客様を満足させることもできません。

また、一人ひとりの社員が、「なぜ自分はこの会社で働いているのか」ということを自分なりにしっかりと意識し、自己実現を通じて達成感や、やり甲斐を実感できるよう仕事に臨んで欲しいと思っています。よく言われる「企業は人なり」ということですね。

## 売上増、新製品開発の好循環を

—— その3つの基本方針の具体的な経営課題は。

**伊集院** そうですね。それもまた3つ挙げています。第一番目は「営業の早期強化」です。分社化前の動物用医薬情報担当者は35名でしたが、これを1年以内に30%から40%増員する計画です。もちろん数だけでなく、質の向上にも取り組みます。質とは「マーケティング思考」と「PDCAに基づく行動」です。きちんとした分析に基づくエリア戦略の立案と、その実践に際してのPDCAサイクルに基づく行動です。お客様（獣医療関係の方々、およびペットオーナー様）のニーズに、プロフェッショナルとしてきちんとお応えできるように学術レベルを上げることが、まずは目指しています。

第二番目は、「新製品開発の促進」です。やはり私たちのミッションは「良い薬」を創ることが基本です。これまでやや遠慮していた面もあったのではと感じていますので、新社では将来の事業発展のために研究開発費を思い切って増やし、自社開発のテーマを増やすことや導入検討を積極化することを考えています。

最後はやはり、「人材の確保と育成」です。戦略を立案し、実践し、開発を進め、営業活動を広げていくには、何と云って

もよい人材を確保し、また各自に成長機会を提供し、成長のための支援をしていかなければなりません。こうした人材投資も積極化する予定です。

こうした3つの経営課題にしっかり取り組み成果を上げれば、2014年の売上高で150億円超は確保できると考えております。

—— アニマルヘルスケア分野のマーケットをどのように展望していますか。

**伊集院** 小動物分野については、2000年以降、年率10%前後の市場成長率を示していたのではないかと思います。ただ、昨今は成長に驚りが見られており、その背景には2つほどの要因が考えられます。

1つは、大型犬から小型犬へのシフトです。最近ではマンションでもペットが飼えるようになってきていますが、チワワなどの飼いやすい小型犬が普及し、頭数は増えてもボリュームとしては伸び悩んでいます。また、景気低迷の影響が庶民生活に響き、来院回数の減少、安価フードへの変更などペットへの支出が減ってきているようです。

ただ、長期的観点からは、まだまだペット市場は伸びていくものと推定しています。「動物と人との共生」というのはまさに幸せな人間社会の実現だと思っておりますので、産業としても育成していくべきではと思っています。

## 科学の力で新しい価値を創造

—— すでに一部お話が出ていますが、新会社に託す理念を伺いたい。

**伊集院** 私たちの新社も企業理念、コーポレートスローガン、およびコアバリューの3つを策定いたしております。企業理念ですが、「私たちは、科学の力で新たな価値を創造し、動物たちの健康を支え、人々の笑顔あふれる暮らしに貢献します。」というものです。

若干補足しますと、「科学の力で新たな価値を創造」とは、研究開発型の会社とし

て新しい製品を自ら開発し、有効性・安全性の高い製品を提供することを事業の軸にするということです。

また、「人々の笑顔あふれる暮らしに貢献」とは、医薬品の提供を通じて動物たちの健康を支え、人と動物たちがともに健康やかで、笑顔満ちあふれる幸せな暮らしをしている社会を実現するために貢献したい、という意味です。これらは部長以上に合宿してもらい、考えてもらいました。

また、コーポレートスローガンは、「もっとそばへ。もっとさきへ」ですが、これは社内公募により若い社員が提案してくれたものです。もっとお客様のそばへ、もっと良いものを創り、もっと先の幸せな暮らしを実現したいという意味を含めています。

3つ目のコアバリューは、「笑顔」、「情熱」、「信頼」の3つの言葉です。これらは中堅若手社員10名ほどを集め、先の企業理念に基づいて、私たちの価値観となるものとして考えてもらったものです。「いきいき、わくわく、きらきら」して全員が元気に働いている良い会社になりたいと思っています。

—— 長時間ありがとうございました。



## 伊集院 哲(いじゅういん・さとし)氏

早稲田大学卒業後、住友化学入社。その後、住友化学の医薬品部門である住友製薬に転じ、合併に伴い大日本住友製薬勤務。営業企画部長や執行役員海外事業推進部長を経て、DSファーマアニマルヘルス社長に就任。趣味＝料理とゴルフ。

## 【お問い合わせ】

### DSファーマアニマルヘルス株式会社

〒553-0001 大阪市福島区海老江1丁目5番51号

TEL 06-6454-8823 <http://animal.ds-pharma.co.jp>